

「聖霊の希望」

ローマの信徒への手紙 5 章 5 節

聖学院大学政治経済学部教授 鄭 鎬碩(ジョン ホソク)

「希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。」

今日の御言葉は、希望についてです。希望、とても良い言葉です。しかし、周りを見渡せば、今は希望を語ることが非常に難しい時代です。むしろ、葛藤や憎しみが日々増しているようです。これから世界は良くなるのでしょうか？ もし、「そうだ」と答えるなら、人びとは直ちに、「そんな楽観の根拠は一体何だ？」と問い返すでしょう。

今日の聖書箇所でパウロは希望を語っていますが、その根拠は「愛」です。すなわち、神様が聖霊を与えてくれた。その聖霊によって、私たちの心に、愛が注がれた。だから、希望があるということです。

ところで、この論理はかなりユニークです。希望というのは、将来への期待であり、可能性の領域なのに、これが確証できると言うからです。私たちの心には、神の愛がある。ただ、これは、私が頑張ればもらえる、あるいは、私の行動次第では、もらえないかも知れないというものではない。「すでに」、無条件に与えられているものである。だからこそ、それは決して私たちを欺くことのない「確かなる希望」になるというわけです。

また、聖霊は、神の愛を、まるでコップに水を注ぐように上から注いでくださったとあります。ローマの信徒への手紙には、「聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださる」(15:13)、「恵みはなおいっそう満ちあふれました」(5:20)のような表現が度々出てきます。つまり、聖霊とは、とにかく、溢れるくらい、上からふんだんに与えてくれる存在となっています。

さて、豊かに与えられることは、キリスト教特有の原理のようです。有名な、五つのパンと二匹の魚の奇跡、すなわち、イエス様が五つのパンと二匹の魚で五千人を食べさせたという話でも、「すべての人が食べて満腹した。そして、残ったパンの屑を集めると、十二籠もあった」(ルカによる福音書 9:17)とあります。五千人が満腹した時点で、もう十分驚くべき奇跡です。それなのに、あえて十二籠も余らせるところ、単に必要なものが与えられるだけでなく、ニーズを全て満たして残るくらいたくさん与えられるという豊かさこそ、注目すべきポイントではないでしょうか。

ご存知のように、欠如や乏しさは人間の基本的な生活条件です。必要なもの、価値あるものはいつも足りないというのは、経済の基本前提であり、支払ったコストに見合った分を受け取るという徹底した相互性こそ、資本主義経済の最も重要な原理です。しかし、イエス様の奇跡とは、一方的に与えて、「あえて」十二籠も余らせるようなものです。

溢れるほど注がれるという、この聖霊の原理は、もらう分だけを正確に勘定する等価交換のルールからすれば、完全な例外であると言えます。しかし、もしかしたら、その逆かもしれません。というのも、

幼い頃、親が私たちに注いでくれた愛や、周りの人々からの助け、先輩や先生に面倒を見てもらったことを思い出してみれば、「むしろ」無条件に与えられる愛の方が、人間にとって、より根源的な原理ではないでしょうか。さらに、外に出れば、それこそ対価のない形で、天から降り注ぐ太陽の光があります。その限りないエネルギーの恵みに、この地球のすべての命が頼っていることも、改めて考えさせられます。

私は、度々希望について考えます。その一つの理由は、私の立っているここが他ならぬ教育の現場だからです。当然のことながら、希望のない教育は考えられません。教育は、資本の論理によっても強く規定されますが、それでも、そこに希望があるとすれば、それは、等価交換を超えて豊かに与え、無限のケアを施すという、ある種の不可能な理想があるからです。この理想、理念の名こそ、愛ではないでしょうか。

パウロは、聖霊が神の愛をくれたから希望があると云います。これは本当でしょうか。逆のことを考えてみます。もし人間に愛の能力がそもそもないなら、この世界はどのようなものになっていたでしょう。もし、心を砕いて人を助け、次の世代を育てる人がいなければ人類に未来はあるのでしょうか。それこそ、愛なくして希望はありうるでしょうか。

ペンテコステを迎え、聖霊が与えてくれたものを思い起こします。いつよりも暗いこの時代に立ち向かい、私たちの心に宿っているはずの豊かな愛、そして確かなる希望を見つめたいと思います。祈ります。

神さま、ペンテコステを守ることができましたことを、感謝します。主は、聖霊を通して、私たちの心を愛で溢れさせてくださいました。この愛に気づくことができますように。また、愛を拠り所とするこの学びの共同体を覚えてください。経済的合理性と憎悪が増していく中で希望を築く大学とさせてください。一人ひとりの行いが、愛の証となり、明るい未来を作っていく責任を十二分に果たすことができますよう聖霊の力で強めてください。この祈りをイエス・キリストの御名によって捧げます。アーメン。

2024年5月22日 聖学院大学 ペンテコステ礼拝(韓国語／日本語順次通訳)